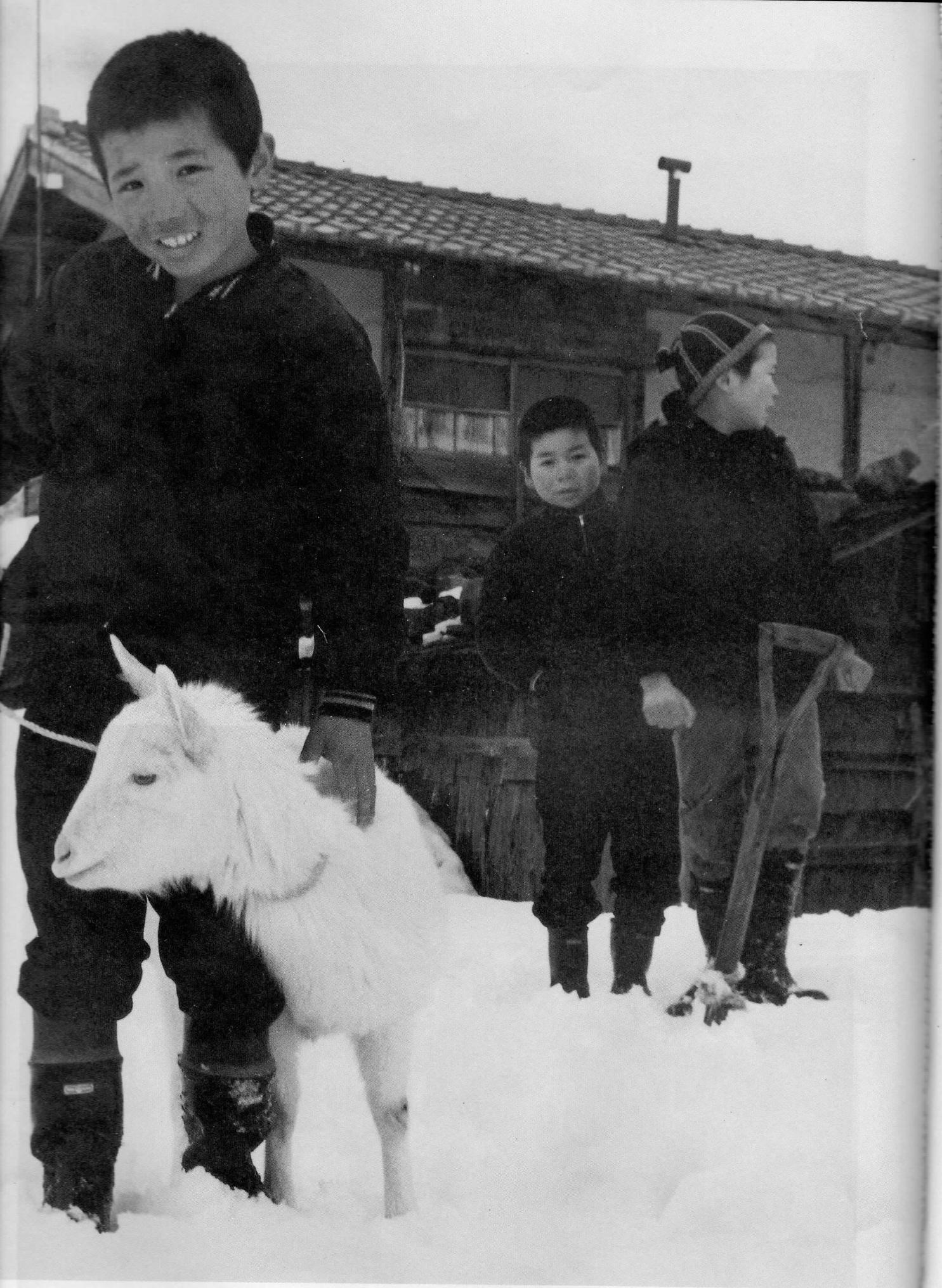


ありし日の旭原

●みこむかる感動する

昭和45年頃の小平市立水
（昭和45年頃の小平市立水）



昭和33年頃の小学生たち
(自然とたわむれる姿は天子にも勝る)



入植当時仕事のあい間に……



昭和25年 旭原分校開校式
(希望とゆめがふくらむ)



昭和25年 旭原分教所全景
(右後方は今村家・左後方にみえるのは片桐家)



昭和35年 新入生と卒業生

昭和36年 春旭原分校前
(保健所で栄養指導に来た時のスナップ)



大源太山をバックに



昭和28年頃の関先生夫妻と全校生徒



昭和45年頃の嫁入り
(未舗装の道には水溜があちこちと出来ている)



昭和30年頃
(今は、しっかりと
カーチャンになっています)



昭和31年頃
(オンブされているのは、当記念誌編集委員長)



昭和35年 収穫の喜び (清水家)



昭和34年 整地されたグラウンドで(とろりこ節)



昭和37年 新年会
(左から原沢フミエと伊藤キクへ、藤木三平先生)



昭和48年 へき地複式教育研究会の
お手伝いをする旭原部落の婦人



昭和37年頃春、残雪の中で無邪気に遊ぶ子供たち (前の平でのスナック)



昭和36年頃 旭原分校にて
(この子供たちは、現在40歳代である。今、どうなふう成長しているか?)

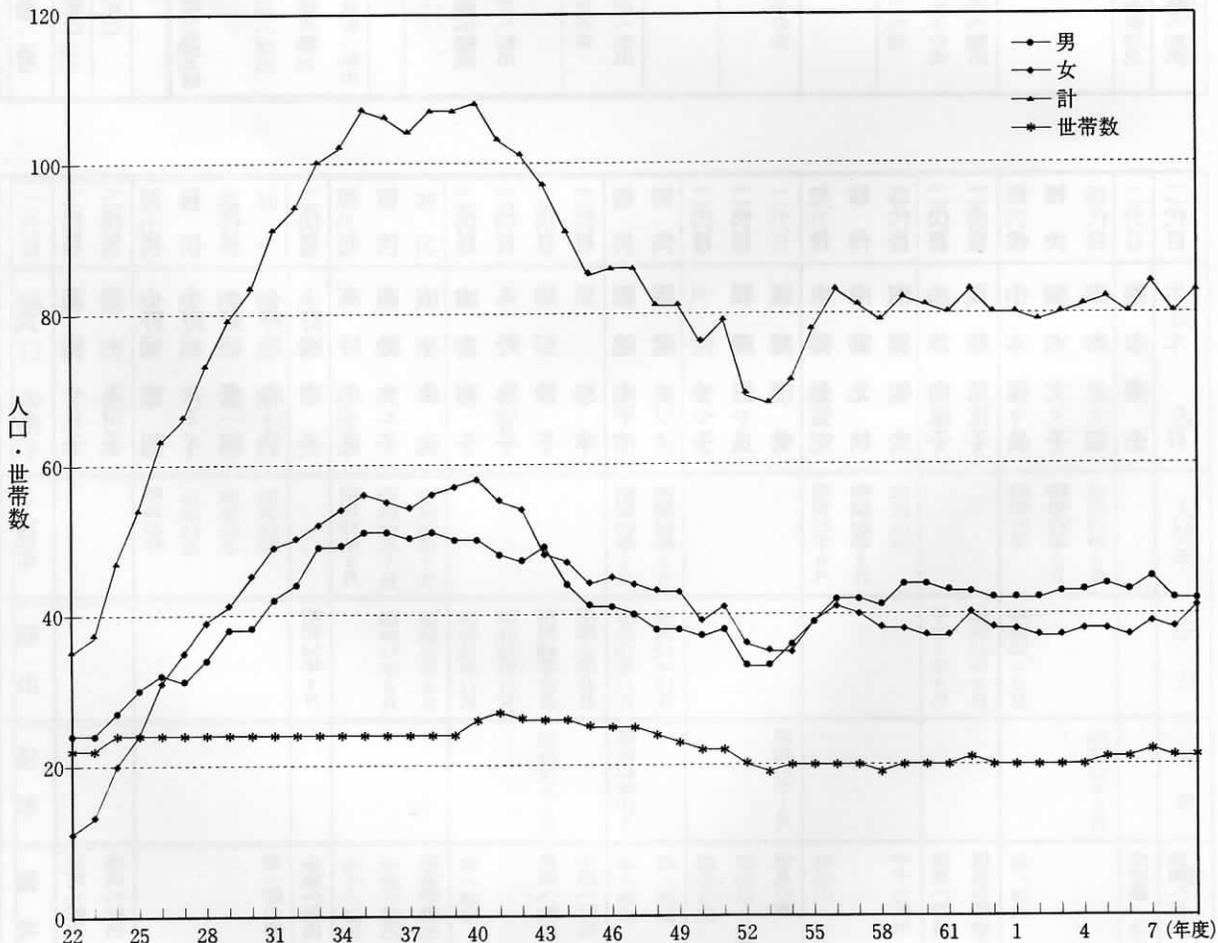
人口及び世帯数の推移

(単位：人、件)

年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
男	24	24	27	30	32	31	34	38	38	42	44	48	48	51	51	50	51	50	50	48	47	49	44	41	41	40
女	11	13	20	24	31	35	39	41	45	49	50	52	54	56	55	54	56	57	58	55	54	48	47	44	45	46
計	35	37	47	54	63	66	73	79	83	91	94	100	102	107	106	104	107	107	108	103	101	97	91	85	86	86
世帯数	22	22	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	26	27	26	26	26	25	25	25

年度	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9
男	38	38	37	38	33	33	36	39	42	42	41	44	44	43	43	42	42	42	43	43	44	43	45	42	42
女	43	43	39	41	36	35	35	39	41	40	38	38	37	37	40	38	38	37	37	38	38	37	39	38	41
計	81	81	76	79	69	68	71	78	83	82	79	82	81	80	83	80	80	79	80	81	82	80	84	80	83
世帯数	24	23	22	22	20	19	20	20	20	20	19	20	20	20	21	20	20	20	20	20	21	21	22	21	21

推移グラフ



町内に有する施設の概要

1. ダム関係

①大源太川水系

- 大源太第一号ダム
着工：S13年5月16日
竣工：S14年11月30日
コンクリートアーチ式重力ダム
- 大源太第二号ダム
(板木堰場)
竣工：S41年度
- 大源太第三号ダム
(猪小屋堰場)
竣工：S15年5月

②足拍子川水系

- 足拍子第一号堰場
竣工：S28年
- 足拍子第三号堰場
竣工：S48年



大源太第1号ダム

2. キャンプ場関係

①青少年旅行村

S48年6月30日開設

• 施設概要

中央管理棟：木造亜鉛葺2階建延面積185.5m²

駐車場：普通車100台

芝生広場、公衆便所3ヶ所、テントサイト：100張（6人用）、園地1ヶ所

野外炊飯所3ヶ所、貸テント10人用4張・6人用90張・スパ型10張、貸毛布、貸スノコ等有

②そうめん流し

S53年6月開設

• 施設概要

食堂（そうめん流し）：木造亜鉛葺平屋建、延面積170.0m²

収容人数：約100人

そうめん流し設備：8基

つりぼり、園地1ヶ所、公衆便所1ヶ所

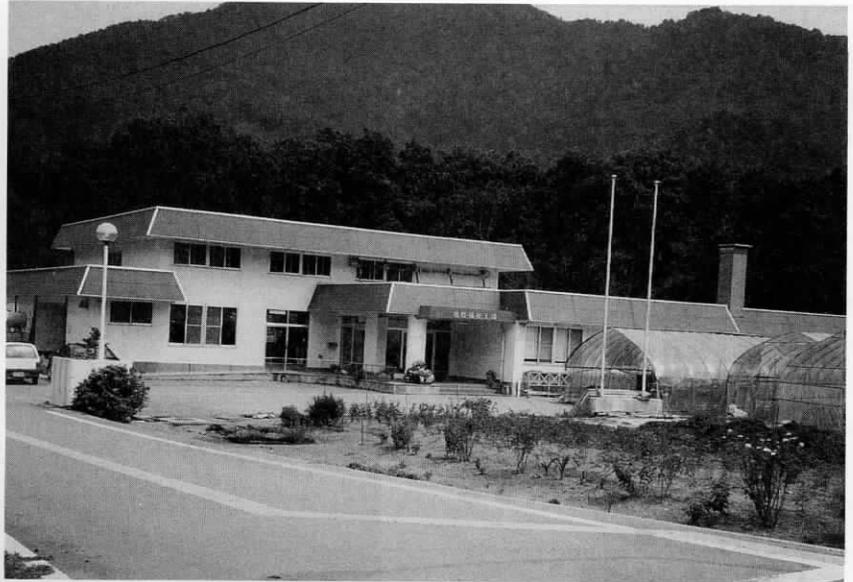


そうめん流し

初代人権者及び二代目氏長への感謝を込めて

3. 福祉工場関係

- ①旭原福祉工場
H4年4月開始



旭原福祉工場

4. 文教施設関係

- ①旭原分校
 - ・ S25年4月13日土樽村立土樽小学校旭原分教場として開校
 - ・ S30年4月1日湯沢町に合併し、湯沢町立土樽小学校旭原分校と改称
 - ・ S41年9月16日完全給食開始（夏期の間本校より萩野屋さんの車で）
 - ・ S43年4月1日夏期5・6年生本校通学開始
 - ・ S50年3月17日分校閉校

●旭原分校児童数の推移 (単位：人)

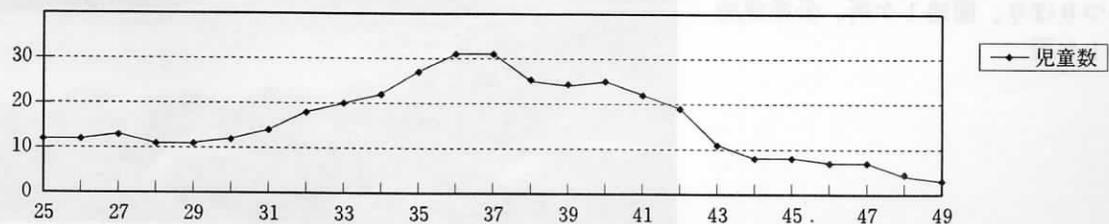
年度	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
児童数	12	12	13	11	11	12	14	18	20	22	27	31	31

年度	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
児童数	25	24	25	22	19	11	8	8	7	7	5	3



旭原分校

●児童数推移グラフ



町内に有する施設の概要

高橋洋典の別荘

5. 公民館施設関係

- ①旭原振興センター
・ S50年10月1日完成

6. ゴルフ施設関係

- ①湯沢パークゴルフ場
・ 施設概要
〈S57年8月25日
オープン〉
18ホール、6,870ヤード、パー72

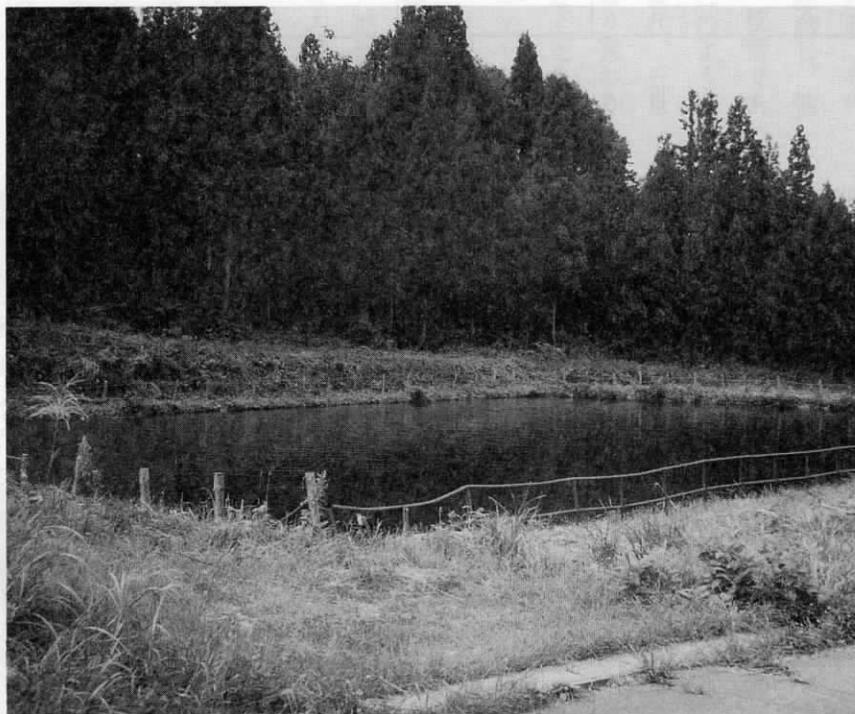


旭原振興センター

7. 溜池施設関係

- ①一号溜池（上）
竣工：S36年頃
灌がい面積4ha
貯水量2千 m^3
高さ2m、堤長75m

- ②二号溜池（下）
竣工：S36年頃
灌がい面積4ha
貯水量2千 m^3
高さ2m、堤長75m



一号溜池

8. 消防施設関係

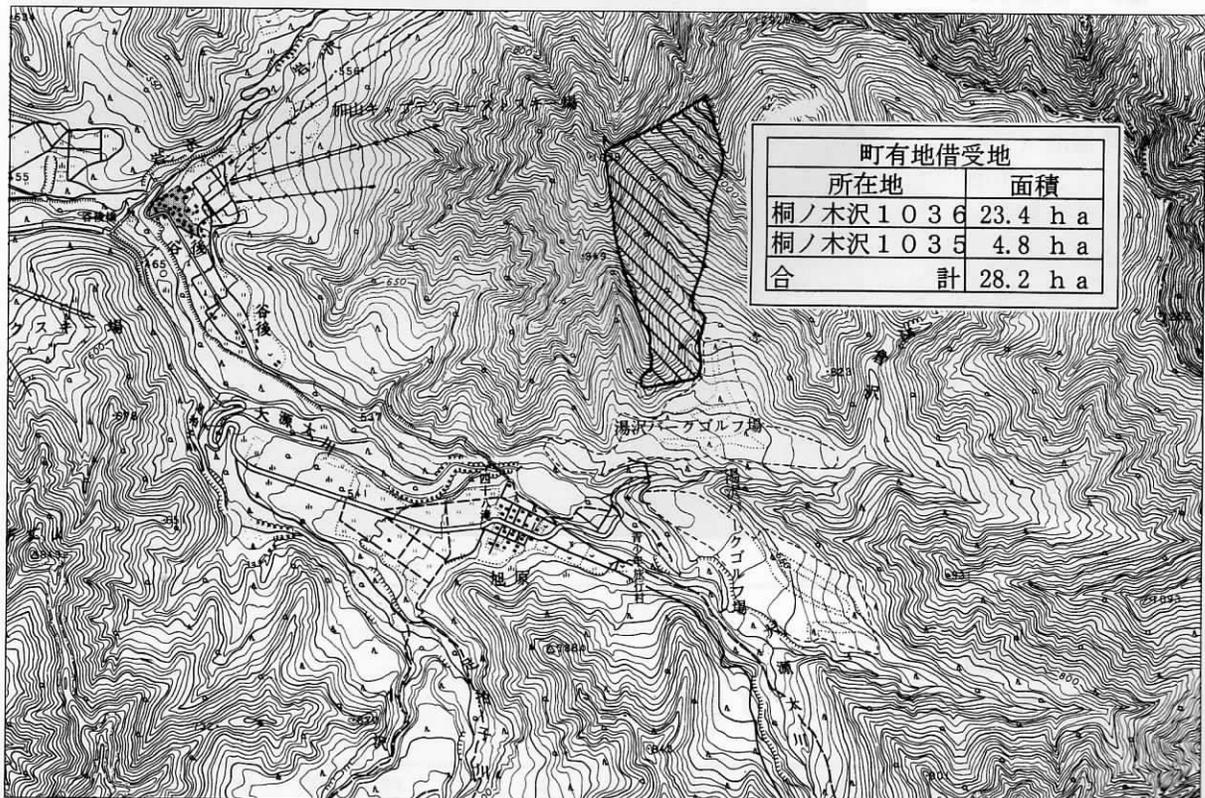
第三分団第10部（昭和52年度より）団員11名

- ①消防小屋 1戸
②消火栓 5基

旭原の共有財産

所在地	番地	地目	面積(m ²)	備考
字向原	6,582-1	雑種地	431	今村宅前(車回転場)
字向原	6,608-1	宅地	2,598	振興センター用地
字向原	6,613-8	山林	11,838	下堰沿え傾斜地
字向原	6,517	原野	4,892	共有墓地
桐ノ木沢	1,036(仮)	薪炭林	234,249	町より借受地 位置図参照
桐ノ木沢	1,035(仮)	採草地	47,072	

借受地位置図



あ・と・が・き

旭原に入植した初代の方々の、約二割が既に他界している。その他、町からの遠隔地という事から又、子供の教育などを懸念し、他の集落に引越すもの四世帯、新潟市に移住するもの一世帯であり、現在は、一九世帯(他に同居世帯二)が共栄する。このような状況の下、初代が築き上げてきたもの、又その経緯が二世代、三世代と引き継がれていく過程で、消滅していく。時世の移り変わりは、自然現象でありどうにも成らないことであるが、少なくとも、激動期の片鱗を残したいという事と、初代の労をねぎらいたい意味から、今回五十周年記念誌の編集を企画したものである。

編集委員は、旭会員(二代目で構成するむらづくり組織)がそっくり委員にシフトし、役割を分担、活動に当たった。ただ期間が二カ月という条件の中で、十分な調査もできなく、満足できる成果が得られなかったことをお許し願いたい。

この度の、編集に携わったことで、過去に考えたこともなかった開拓事業の足跡の、一端を知ることが出来た。入植者の努力は勿論ではあるが、あらゆる官、民の協力がなくては、成り得なかったであろう事が窺える。ここに改めて感謝する次第である。

最後に、本記念誌の編集に当たり、ご寄稿された方、資料の提供を下された方、農地事務所、農業改良普及センター、高橋写真店様、大和町の佐藤勇氏、カクチョウ印刷(株)様に御礼申し上げます。私たち委員もこれを機に、開拓魂を引継ぎ、住み易い「オアシス」の地となるよう村づくりに研鑽することを誓うものです。

平成九年十月末日

編集委員長(旭会会長) 小野塚憲一郎

● 編集委員

小野塚 憲一郎	山本 康次
並木 進	腰越 恒良
樋口 昭三	清水 守
南雲 龍雄	高橋 雄二
並木 政友	樋口 宗雄
高井 松一郎	南雲 義雄
片桐 宏志	

旭原の共有財産とは、旭原の歴史を語る上で欠かせない重要な要素である。この共有財産は、旭原の発展を支えてきた多くの先人の努力と犠牲のたまものである。この共有財産を大切に守り、後世に伝えることが、旭原の歴史を継承し、未来を築くための重要な使命である。

旭原の共有財産には、有形の財産と無形の財産がある。有形の財産には、土地、建物、美術品などが含まれる。無形の財産には、伝統文化、技術、知識などが含まれる。これらの共有財産を大切に守り、後世に伝えることが、旭原の歴史を継承し、未来を築くための重要な使命である。

旭原の共有財産を大切に守るためには、まずその価値を認識し、大切に守る必要がある。そのためには、旭原の歴史を学び、その価値を認識することが重要である。また、旭原の共有財産を大切に守るためには、旭原の歴史を後世に伝えることが重要である。そのためには、旭原の歴史を学び、その価値を認識することが重要である。

旭原入植五十周年記念誌 「大源太」

発行年月日 平成9年11月23日
発行者 旭会
印刷 カクチョウ印刷株式会社